

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	教科書	数学Ⅰ(数研出版)
講座名	数学Ⅰ	科目名	数学Ⅰ			副教材	新課程 チャート式 基礎からの 数学Ⅰ(数研出版)
単位数	4単位	区 分	必履修				新課程 サクシード 数学Ⅰ(数研出版)
年 次	1年次	形 態	習熟度別授業				
担当者名	1 2組(加賀山・赤石・堀内) 3 4組(加賀山・赤石・堀内) 5 6組(大久保徹・高橋・石川) 7 8組(大久保徹・高橋・石川)						

授業内容	第1学期	第2学期	第3学期		
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式 2 多項式の加法と減法および乗法 3 因数分解 発展 3次式の展開と因数分解 第2節 実数 4 実数 5 混合を含む式の計算 発展 対称式と基本対称式 発展 2重根号 第3節 一次不等式 6 一次不等式 7 一次不等式の利用 研究 絶対値と場合分け 第1定期考査	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明 発展 命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 研究 グラフの移動 3 2次関数の最大と最小 研究 定義域の両端が動く場合の最大 4 2次関数の決定 第2節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 グラフと2次方程式 発展 放物線と直線の共有点 第2定期考査	7 グラフと2次不等式 研究 絶対値を含む関数のグラフ 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第3定期考査	第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 発展 三角形の形状 7 三角形の面積 発展 ヘロンの公式 8 空間図形への応用 第4定期考査	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位範囲 4 分散と標準偏差 研究 変数の変換 5 2つの変量の間の関係 研究 最小2乗法 6 仮説検定の考え方 発展 仮説検定と反復試行の確率 課題学習 第5定期考査	
定期考査までの授業時数	18時間	18時間	16時間	18時間	16時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	授業や課題を通して学んだ知識や技能を定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。
	命題の条件や結論に着目し、目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、考察し判断したりする力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、適切に表現ができているか、定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	授業や課題に対する姿勢、学習態度、数学への関心等で判断する。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。

日常の学習方法	①授業中 講義と演習を織り交ぜた形式で学習をすすめていく。教科書のほか、傍用問題集(サクシード)や参考書(青チャート)の問題も適宜取り上げて演習する。 ②家庭学習 予習においては、教科書を熟読し問や練習問題を解きながら、難しいところや疑問に思うところを自分で把握しておくことが大切である。復習においては、傍用問題集や参考書の類題演習を通して確認しながら学習を進める。
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	数学Ⅰで学習する式と計算、2次関数、2次方程式、2次不等式、三角比はどれも数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲへとつながる重要な内容であり、十分な練習量が必要である。
-----------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	教科書	数学A（数研出版）
講座名	数学A	科目名	数学A			副教材	新課程 サクシード数学I+A（数研出版） 新課程 チャート式基礎からの数学I+A（数研出版）
単位数	2単位	区 分	学校必修				
年 次	1年次	形 態	クラス単位				
担当者名	1組 大久保徹 2組 廣田 3組 石川 4組 石川 5組 石川 6組 前原 7組 堀内 8組 堀内						

	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
授業内容	数学I・A共通学習項目 集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 3つの集合の和集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 円順列・重複順列 第一定期考査	5 組合せ 重複を許して取る組合せ 第2節 確率 6 事象と確率 7 確率の基本性質 8 独立な試行の確率 9 反復試行の確率 10 条件付き確率 原因の確率 第二定期考査	1 1 期待値 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心、内心、重心 3 チェバの定理、メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 方べきの定理 7 2つの円の位置関係 8 作図 第2節 空間図形 第三定期考査	第3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 素数と因数分解 3 最大公約数、最小公倍数 4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式 7 記数法 合同式 互除法の原理 2次の不定方程式 第四定期考査	課題研究 発展学習 第五定期考査
定期考査までの授業時数	10時間	14時間	14時間	14時間	18時間

	観点	方法	基準			
			A	B	C	
評価	知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	授業や課題を通して学んだ知識や技能を定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。
	思考・判断・表現	図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、適切に表現ができているか、定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。	授業や課題に対する姿勢、学習態度、数学への関心等で判断する。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。

日常の学習方法	①授業中 講義と演習を織り交ぜた形式で学習をすすめていく。教科書のほか、傍用問題集（サクシード）や参考書（青チャート）の問題も適宜取り上げて演習する。 ②家庭学習 予習においては、教科書を熟読し問や練習問題を解きながら、難しいところや疑問に思うところを自分で把握しておくことが大切である。復習においては、傍用問題集や参考書の類題演習を通して確認しながら学習を進める。
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	数学Iと同様、数学II、数学B、数学III、数学Cへとつながる基礎的な内容である。一般には選択学習をする領域であるが、本校では可能な限り全範囲を扱う。
-----------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。	教科書	数研出版 数学Ⅱ
講座名	数学Ⅱ	科目名	数学Ⅱ			副教材	新課程 サクシード数学Ⅱ+B(数研出版) 新課程 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)
単位数	4単位	区 分	必履修				
年 次	2年次	形 態	習熟度別授業				
担当者名	島野、森、石村、伊東、高橋、廣田、前原						

授業内容	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第5学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
直線上の点 平面上的点 直線の方程式 2直線の関係 円の方程式 円と直線 2つの円 軌跡と方程式 不等式の表す領域	一般角と弧度法 三角関数 三角関数の性質 三角関数のグラフ 三角関数の応用 加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成	指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数	微分係数 導関数 接線 関数の値の変化 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式	不定積分 定積分 面積 総合演習	
定期考査 までの 授業時数	20時間	28時間	28時間	28時間	36時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	基本的な概念や原理を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能を身に付ける。	授業や課題を通して学んだ知識や技能を定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。
	論理的に考察する力、図形を簡潔・的確に表現したり考察したりする力、事象を数学的に考察する力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、適切に表現ができていないか、定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を養う。	授業や課題に対する姿勢、学習態度、数学への関心等で判断する。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。

日常の学習方法	①授業中 講義と演習を織り交ぜた形式で学習をすすめていく。教科書のほか、傍用問題集(サクシード)や参考書(青チャート)の問題も適宜取り上げて演習する。 ②家庭学習 予習においては、教科書を熟読し問や練習問題を解きながら、難しいところや疑問に思うところを自分で把握しておくことが大切である。復習においては、傍用問題集や参考書の類題演習を通して確認しながら学習を進める。
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	共通テストの範囲となる。数学Ⅲ、数学Cへとつながる基礎的な内容である。
-----------------	-------------------------------------

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標 数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。	教科書	数学B (数研出版)		
講座名	数学B	科目名	数学B		副教材	新課程 サクシード数学Ⅱ+B (数研出版) 新課程 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)		
単位数	2単位	区 分	学校必修					
年 次	2年次	形 態	クラス単位					
担当者名	1組 堀内	2組 石川	3組 森	4組 森	5組 赤石	6組 赤石	7組 島野	8組 伊東

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
数列		いろいろな数列の和	確率変数と確率分布	正規分布	課題研究
等差数列とその和		漸化式と数列	確率変数の期待値と分散	母集団と標本	発展学習
等比数列とその和		様々な漸化式	確率変数の変換	標本平均とその分布	
和の記号Σ		数学的帰納法	確率変数の和と期待値	推定	
階差数列			独立な確率変数と期待値・分散	仮説検定	
			二項分布		
第一定期考査		第二定期考査	第三定期考査	第四定期考査	第五定期考査
定期考査までの授業時数	10時間	14時間	14時間	14時間	18時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活との関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	授業や課題を通して学んだ知識や技能を定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業で得た知識を十分理解しており, 数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており, 数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で, 数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。
	事象を数学的に表現し考察する力, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う	授業や課題を通して学んだことを思考判断し, 適切に表現ができているか, 定期考査または授業中の小テストで評価する。	授業や課題を通して学んだことを思考し, 正しく判断し, 適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し, 表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で, 表現することに努力を要する。
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	授業や課題に対する姿勢, 学習態度, 数学への関心等で判断する。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり, 問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり, 問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く, 問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。

日常の学習方法	①授業中 講義と演習を織り交ぜた形式で学習をすすめていく。教科書のほか, 傍用問題集(サクシード)や参考書(青チャート)の問題も適宜取り上げて演習する。 ②家庭学習 予習においては, 教科書を熟読し問や練習問題を解きながら, 難しいところや疑問に思うところを自分で把握しておくことが大切である。復習においては, 傍用問題集や参考書の類題演習を通して確認しながら学習を進める。
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	共通テストの範囲となる。数学Ⅲ、数学Cへとつながる基礎的な内容である。
-----------------	-------------------------------------

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図る。 既習の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容の発展的な内容の理解を深める。 理系大学入試問題解決能力の育成を主眼とする。	教科書	改訂版数学Ⅲ（数研出版）
講座名	数学Ⅲ	科目名	数学Ⅲ			副教材	改訂版サクシード数学Ⅲ（数研出版） 改訂版チャート式基礎からの数学Ⅲ（数研出版）
単位数	6単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当名	①島野 ②加賀山 ③石村 ④前原						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	関数の極限	接線の方程式と平均値の定理	夏季休業期間	定積分、定積分と微分、区分求積法	数学ⅡⅡAⅢ演習	冬季休業期間	数学ⅡⅡAⅢ演習
	指数関数・対数関数・三角関数と極限	関数の増減		面積			個別指導
	関数の連続性・連続関数の性質	グラフの凹凸		いろいろな図形の面積、体積			
	微分可能と連続	第2次導関数と極大・極小		関数の近似式			
	導関数、合成関数と逆関数の微分法	不定積分、置換積分法・部分積分法		(発展) 速度・加速度			
	三角関数・指数関数・対数関数の微分法	いろいろな積分		(発展) 曲線の長さ 速度と道のり			
	高次導関数	第二定期考査		(発展) 微分方程式			
	第一定期考査			第三定期考査			
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲
	課題テスト 1年生 4月10日 2年生 4月10日 3年生 4月10日	1,2年生 7月6日 3年生 4月24日 5月24, 25日
		数学ⅠA全範囲 数学Ⅱ 数列の極限 ベクトル 関数の極限

2学期課題テスト 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲
	1,2年生 9月13日 10月30日 3年生 10月5日 10月30日
課題テスト 1年生 8月26日 2年生 8月26日 3年生 8月26日	数学ⅠA全範囲 数学ⅡB全範囲 数学Ⅲ全範囲

3学期課題テスト 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
課題テスト 1年生 1月8日 2年生 1月8日	1,2年生 1月17日 1月18日

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 教科書の他、問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の復習を中心にして、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との 関連	医学・工学部・理学部等と志望する場合には必ず大学入試科目になっている。
-------------------------	-------------------------------------

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	既習の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容の発展的な内容の理解を深める。 難関国立大学入試問題解決能力の育成を主眼とする。	教科書	
講座名	数学演習	科目名	数学Ⅰ			副教材	メジアン数学演習ⅡⅠA B
単位数	4単位	区 分	自由選択				チャート式基礎からの数学Ⅰ+A (数研出版)
年 次	3年次	形 態	選択				チャート式基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)
担当者名	① 廣田 ② 赤石						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	微分法とその応用	図形と方程式	夏季休業期間	微分法とその応用(発展)	図形と方程式(発展)	冬季休業期間	入試問題演習
	積分法とその応用	三角関数	実践問題演習	積分法とその応用(発展)	三角関数(発展)		個別指導
	平面ベクトル・空間ベクトル	指数・対数関数		平面ベクトル・空間ベクトル(発展)	指数・対数関数(発展)		
	数列	整数の性質		数列(発展)	整数の性質(発展)		
	場合の数・確率		場合の数・確率(発展)				
第一定期考査		第二定期考査		第三定期考査			
定期考査までの授業数	20 時間	20 時間		20 時間	20 時間		8 時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲	
		共通テスト 4/26, 4/27	数学ⅠA全範囲 数学Ⅱ 数列の極限 ベクトル 関数の極限
		記述テスト 5/20, 21	

2学期課題テスト 実施予定日・範囲		2学期実力テスト 実施予定日・範囲	
		記述テスト 7/31 8/27, 29 10/14, 15 10/23	数学ⅠA全範囲 数学ⅡB全範囲
		マークテスト 9/16, 17 11/8, 9	
		共通ブレ 11/25, 26	

3学期課題テスト 実施予定日・範囲		3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。入試問題を解ける力をつける。 ②家庭学習 授業の復習を中心に、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。 後期の後半は入試問題演習を中心に学習する。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との 関連	文系難関国立大学等を志望する場合には必ず大学入試科目になっている。問題を事前に必ず自分で考え、授業で確認して、復習する。この繰り返しで実力向上の秘訣です。
-------------------------	---

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	複素数平面・式と曲線について理解させ、知識の習得と技能の習熟を図る。 既習の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容の発展的な内容の理解を深める。 理系大学入試問題解決能力の育成を主眼とする。	教科書	数学Ⅲ(数研出版)
講座名	理系数学演習	科目名	数学Ⅱ			副教材	チャート式基礎からの数学Ⅰ+A(数研出版)
単位数	2単位	区 分	自由選択				チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)
年 次	3年次	形 態	選択				チャート式基礎からの数学Ⅲ(数研出版)
担当者名	①(水12)高橋 ②(木12)大久保 ③(金12)大久保 ④(金56)高橋						

学校行事	第1学期	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	2次曲線 放物線	複素数平面 複素数の極形式と乗法・除法 ド・モアールの定理 複素数と図形	夏季休業期間	曲線の媒介変数表示	総合演習および入試問題演習	冬季休業期間	入試問題演習	個別指導	
	2次曲線 楕円			実践問題演習					極座標と極方程式
2次曲線 双曲線	第1定期考査		第2定期考査	第3定期考査		第4定期考査			
2次曲線の平行移動									
2次曲線と直線									
2次曲線の性質									
定期考査までの授業数	8 時間	10 時間		10 時間	10 時間		4 時間		

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲
		数学ⅠA全範囲口 数学ⅡB全範囲 共通テスト 4/25, 4/26 記述テスト 5/19, 20 複素数平面・式と曲線

2学期課題テスト 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲
	記述テスト 7/30 8/25, 26 10/15 10/22 マークテスト 9/15, 16 11/7, 8 共通ブレ 11/25, 26 数学ⅠA全範囲口 数学ⅡB全範囲 数学Ⅲ全範囲

3学期課題テスト 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。入試問題を解ける力をつける。 ②家庭学習 授業の復習を中心に、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。 後期の後半は入試問題演習を中心に学習する。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	医学・工学部・理学部等を志望する場合には必ず大学入試科目になっている。問題を事前に必ず自分で考え、授業で確認して、復習する。この繰り返しは実力向上の秘訣です。
---------------------	---

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	基本的な概念や原理・法則の理解を深め事象を数学的に考察し処理する能力を高める。 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。 既習の数学Ⅰ・Aの内容を総復習し、共通テストでの得点力アップをはかる。	教科書	
講座名	共通テストⅠA演習	科目名	数学A			副教材	ニュースタANDARD数学演習ⅠA+ⅡB(数研出版) 大学入学共通テスト対策数学ⅠA+ⅡB上級演習 PLAN120
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	①石村 ②伊東 ③伊東						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	式の計算	三角比の基本	夏季休業期間	確率	数Ⅰ・Aの総合問題	冬季休業期間	センター試験演習
	方程式と不等式	三角比と図形	実践問題演習	確率と期待値	第四定期考査		個別指導
	2次関数	集合		命題と論証			
	2次関数の最大・最小	場合の数・順列		平面図形			
	2次不等式	組合せ・二項定理		第三定期考査			
	2次関数の種々の問題	第二定期考査					
	第一定期考査						
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲
		共通テスト 4/25, 4/26 記述テスト 5/19, 20 数学ⅠA小問 数学ⅠA応用

	2学期課題テスト 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲
		記述テスト 7/30 8/25, 26 10/6, 7 10/22 共通テスト 9/15, 16 11/7, 8 共通ブレ 11/24, 25 数学ⅠA小問 数学ⅠA応用

	3学期課題テスト 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 教科書の他、問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の復習を中心にして、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との 関連	数学ⅠAの内容の定着を図り、センター試験での得点力アップを目指す。
-------------------------	-----------------------------------

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	基本的な概念や原理・法則の理解を深め事象を数学的に考察し処理する能力を高める。 2年次で学習した数学Ⅱ・Ⅲの基礎知識の確認をする。 共通テストに対応した応用力をつけ、得点力アップを図る。	教科書	高等学校 数学Ⅱ、Ⅲ 改訂版 (数研出版)
講座名	共通テストⅡⅢ演習	科目名	数学Ⅲ			副教材	
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	① 高橋 ② 高橋 ③ 森						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	ベクトル	等差・等比数列 種々の数列	夏季休業期間	指数・対数関数(1)	不定積分・定積分、定積分で表された関数	冬季休業期間	共通テスト模試演習
	ベクトルと平面図形	漸化式 数列の応用	実践問題演習	指数・対数関数(2)	面積		個別指導
	ベクトルと空間図形	三角関数(1)		導関数と接線	共通テスト模試演習		
		三角関数(2)		関数の値の変化			
	第一定期考査	第二定期考査	第三定期考査	第四定期考査			
定期考査までの授業数	8時間	10時間		12時間	10時間		6時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲
		数学ⅡⅢ入試基礎 共通テスト 4/25, 4/26 数学ⅡⅢ入試標準 記述テスト 5/19, 20

2学期課題テスト 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲
	記述テスト 7/30 8/25, 26 10/6, 7 10/22 共通テスト 9/15, 16 11/7, 8 共通ブレ 11/24, 25

3学期課題テスト 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 教科書を復習して、問題集、参考書を主とした講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の復習を中心にして、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	数学ⅡⅢの内容の定着を図り、共通テストでの得点力アップを目指す。
---------------------	----------------------------------